

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム アリエ
（ユニット名）	壱番館
所在地 （県・市町村名）	薩摩郡さつま町船木2311番地8
記入者名 （管理者）	高木 稔文
記入日	平成 20年 8月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループ全体とアリエ独自の理念を作っている。	○	各個人名札の裏に書かれていて、いつでも確認が出来るようにしていく。
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	、全体会などで話し、仕事の前に唱和している。	○	全体会などで話し、仕事の前に唱和していく。
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の目立つところに掲示したり、会話の中で事業所のあり方を伝える時に理念の話をする。	○	
2. 地域との支えあい				
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	シルバーアパートや保育園の子供たちにも声かけしている。	○	運営推進会議で地域代表者に参加してもらい、地域の方々への理解・協力をお願いしてもらったり、地産地消に努め、地域婦人会で作っている味噌を買いに行ったりして交流に心掛けている。
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園の運動会に参加したり、健康教室にも毎月参加している。	○	すこやかよろづ塾、保育園運動会、春の運動会、

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月、アリエ全体会の実施、運営推進会議後や普段気づいた時などに話し合いをしたり、サイボウズ上で意見を出し合っている。	○	毎月、アリエ全体会の実施、運営推進会議後や普段気づいた時などに話し合いをしたり、サイボウズ上で意見を出し合っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点を踏まえよい方向になるように努力している。	○	一つ一つの項目を吟味し、運営に役立てていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々から意見を貰って参考にしている。	○	(議事録)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所要で役場に出向いた時にやりとりしている。	○	メールのやり取りも出来るようにした。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については時々職員との会話の中で説明している。	○	積極的に研修などの参加を行っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加している。	○	普段から敬う気持ちを持つことを話している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	質問に対しては、しっかり答えられるように、また不安については職員で話し合って理解してもらっている。	○	(重要事項説明書、契約書)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等についてはしっかり受け止め、上司に報告し、解決策を検討する体制にしている。記録している。	○	苦情報告書、サイボウズの利用
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康上問題があったら電話する。たより(広報誌)を使って食費の説明や新人紹介をしている。	○	電話、広報誌、訪問時などに情報交換していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	しっかり受け止め、上司に報告し、解決策を検討する体制にしている。	○	意見箱の設置や行政連絡先の一覧を掲示。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃会話で行うほか、全体会でも行っている。その意見はグループミーティングで上司に報告する。	○	サイボウズの利用
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応を行っている。勤務調整も時々行う。	○	柔軟な対応を行っている。勤務調整も時々行う。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	辞職者が出る場合、その1ヶ月ほど前から採用し、ゆっくり慣れるようにしている。	○	辞職者が出る場合、その1ヶ月ほど前から採用し、ゆっくり慣れるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修や内部(グループ)の研修に参加するように促している。	○	(研修スケジュール)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会や主催する研修、見学などを通じて意見交換をする機会を作っている。	○	(いずみ川薩支部入会) 案内分綴り
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いろいろな問題がありそうな場合、面談を行い、ひどい場合はカウンセリングルームに行き、専門のカウンセラーと面談が出来る体制が整っている。	○	ストレスマネジメント研修の資料を提示し、いつでも見ることが出来るようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の目標を達成すべく面談を行っている。人事考課制度に基づく。	○	職員一人一人の目標を達成すべく面談を行っている。人事考課制度に基づく。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームに入居されるまでに、ご本人様と面会させて頂く。発言などをお聞きし、ご希望に添えられるよう検討にはいる。	○	面会し、職員で本人様の思われていることを把握し、検討する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様が支援を必要としていることを、お伺いする。パンフレットを渡し、グループホームという場所をご理解いただく。	○	見学、面談にてお話を詳しくお伺いする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にグループホームにお越し頂き、お茶のみ感覚で見学をして頂いたりしている。	○	本人様の情報把握をする。同時に、見学時に身体状況の把握も行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に何度かドライブでグループホーム周辺までお越し頂き、入居に向け、さりげなく話に取り入れていただいたりしている。ご家族様との情報共有も欠かさない。	○	何度かグループホームまでの道のりを通り、なるべく不安感が少なく済むよう努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理などを教えてもらったり、昔の遊びや話を教えてもらったりしている。	○	昔の遊びを思い出して、セッティングできるよう検討する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご面会の際には、職員とご家族様が話し、ご本人様の現状を報告する場を設けている。(電話連絡他)	○	問題や気になることについては、ご家族様からでもいいご意見がないか相談する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご面会の呼び掛けを行ったり、電話などでも話せるようセッティングしている。また、手紙を読んだりされる利用者様もいる。	○	電話での会話。ご面会の頻度向上。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで地元周辺をまわったり、馴染みの方の現状を世間話などでお話したりしている。	○	ドライブ等で懐かしんで頂く。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーション等行い、交流の機会を増やすようにしている。トラブルが発生した場合は、その原因や状況を把握し、職員がそれぞれの話を聞き、解消に努め、他の利用者様に影響しないよう対応している。	○	日頃の様子観察。発言など。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居され、別施設に行かれた方についても、グループホーム時の情報をお聞きになるご家族様がいらっしゃるが、全面的にご協力していくようにしている。近隣の施設の入所であれば、会いに行ったりしている。	○	退居され、別施設に行かれた方についても、グループホーム時の情報をお聞きになるご家族様がいらっしゃるが、全面的にご協力していくようにしている。近隣の施設の入所であれば、会いに行ったりする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には必ずお伺いしている。また、ご面会時や本人様とお話をする際に、さりげなくお伺いしている。その時のご意見などは記録に残し、必要な場合は全体会や担当者会議などで検討している。	○	本人様、ご家族様とお話をする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活歴や趣味・嗜好、生活環境などは、個人カルテに綴ってあるものや、サマリーなどで把握するようにしている。	○	個人カルテ・サマリーの閲覧。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	お1人お1人の生活状態・身体状態を観察し、できたこと・できなかったこと・気付いた事など、日々の記録に残すようにしている。特変があった事は申し送り書への記載を徹底している。	○	生活リズムの理解。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づき、職員が話し合い、本人様やご家族様のご希望や状態を把握し、お1人お1人に応じた介護計画の作成に努めている。	○	利用者様のできること、できないことの把握。利用者様主体の目標をたてていくこと。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング・担当者会議を定期的に行って、現状把握に努めたり、明らかな状態変化が生じた場合は新たな計画作成を行うようにしている。	○	定期的なモニタリング・担当者会議。(随時対応有)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康観察・排泄・食事・入浴などをチェックし、日常の様子や気付きなどは1日をとおして記録している。特記事項は申し送り書などで情報共有を行っている。	○	申し送り書・掲示板の定時報告の閲覧の徹底。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設のパワーリハビリを利用し、散歩をかねて、筋力低下防止に努めたり、計算ドリルや歌を歌ったりして、楽しみながら行える生活を支援している。嚥下体操なども行い、日常生活内でできるだけ自立支援・身体機能維持などの支援をしている。	○	本人様やご家族様のご意見を真摯に受け止め、できる事を検討。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや保育園の子供との交流がある。また、職場体験などでの交流もしている。一緒に避難訓練などを行っている。	○	地域の方々や民生委員との交流会を予定している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のサービスに移られた時、そのサービスの事業所の介護支援専門員と話し合いました。ケアマネジメント一式の書類をお渡ししました。	○	・他のサービスに移られた時、そのサービスの事業所の介護支援専門員と話し合いました。ケアマネジメント一式の書類をお渡しする。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・計画作成担当者が地域包括支援センターの運営委員なので協働しております。	○	・計画作成担当者が地域包括支援センターの運営委員なので協働する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様やご家族様と相談頂き、定期的に訪問診療をうけている。困った事は気軽に相談できるよう支援している。	○	緊急時には協力医療機関・併設の病院・訪問看護師も対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に訪問診療を受診されているが、さらに定期的に、専門医(精神科)の訪問診療を受診される方もおり、安心されるよう支援している。	○	気になる事は、主治医や専門医師に速やかに連絡できる体制。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師が来た際に気になることは相談している。また、来れないときはメールにて助言をもらっており、情報共有を欠かしていない。	○	日々の情報共有。(メール、電話など)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関に入院された場合、主治医や相談員と話し合いや連絡を頻繁に取り合い、早期退院に向けて連携をとるよう努めている。	○	協力医療機関以外にも同様の措置がとれるよう努力する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看取りの指針を活用しています。・	○	面談や会話に内容を盛り込む。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・看取りの指針を活用しています。	○	特養・老健への申し込み・紹介
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームでの状況を詳しく書いた報告書(サマリー)を用意し、情報伝達に努めている。また、関係する方々に口頭での説明も加えておこなっている。	○	グループホームでの生活情報の報告書の作成。口頭でより詳しく説明。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者様のプライドやプライバシーを尊重し、声掛けやさりげない対応を心掛けている。また、個人情報の取り扱いも適切に行っている。	○	特に排泄誘導をする際などの声掛けについては、配慮を行っている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ゲームをする時は何がいいか聞いたり、その日に着る服を選んで頂いたりするなどしている。料理のメニューも考えて頂いたりする場もある。	○	数種類の中で選ぶのが困難な場合には、職員である程度限定して、決めて頂いたりしている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お1人お1人によって、声掛けのタイミングや生活のリズムに配慮しながら、1日の流れを本人様のペースで行なえるよう努めている。	○	利用者様になるべく、自由にご自分のペースでお過ごし頂けるよう援助していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族様と行きつけの美容院に行かれる利用者様もいる。それ以外の入居者様はご家族様とご相談し、施設内の美容院に職員と出かけている。服を選んで頂いたりしている。夏祭りには浴衣を着られるなどの事もある。口紅などもつけられる。	○	女性であるという楽しみ・張りを感じて頂けるよう努める。 (今、アリエは女性のみ)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と野菜切りなど調理から食事の片付けまで、一緒に行っている。	○	メニューなども決めて頂くときも設けている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お体の状態を踏まえた上で、利用者様の希望・状況に合わせて、楽しんだり、喜んだりして頂けるよう援助している。	○	選んでいただいたりしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中・夜間とも職員・ご家族様でご相談して、最低限なおむつ類の使用にし、自立に近い状態となるよう取り組んでいる。失敗がないよう定期的な排泄誘導をしており、利用者様のご希望で、その都度、誘導をしている。	○	なるべく自立に近い状態でいられるよう支援。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴パターンは決めているが、利用者様のご希望によってその都度、変更している。	○	さらなるくつろいだ気持ちで、楽しく入浴して頂けるよう、時間などを検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動に活発的に参加頂けるようお誘いし、夜間にゆっくりとお休み頂けるようにしている。お昼寝をされたい方はご自分の時間で自由にされている。	○	夜間に眠れない方は、お茶を飲みながら話をお聞きするなどして安心してお休み頂けるよう工夫している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人ファイルに綴ってある生活歴や、ご家族様からのお話での生活歴の把握に努めている。それは情報共有を行い、料理を教えて頂いたり、食器洗い、洗濯関係、歌、おどりなどの個別の得意な事をして頂くよう取り組んでいる。趣味の支援有。	○	現状で満足せず、新たな事が取り組めるよう検討する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	親戚の方へお小遣いをあげたり、買い物に同行し、おやつや物品を買い、支払いをするなどされている。買わなくても、商品を見るだけでも喜ばれるご様子。	○	実践することにより、安心や自信へとつなげていけるよう努める。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	訴えがある方には、なるべくご希望に沿って、安全性を確認した上で、戸外へお連れしている。	○	定期的な散歩・運動の実施。ピクニック・ハイキングなど。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブの機会を設けている。(少人数でも) また、ご家族様とも外食などを自由にされている。	○	ドライブでの気分転換。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との電話やりとり時に、短時間でも本人様とお話し頂ける状況も提供できるよう努力している。手紙を書くことが困難な方については、職員が代筆でお言葉を記載したり、ご家族様からのお手紙は本人様にお読みしている。	○	今後も左記対応を継続。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽にお越し頂けるよう、基本的な面会時間はあるが、いつでもご面会できるよう職員一同が対応する。お越し頂いた際は、利用者様と気がねなくお話頂ける場を提供できるようにしている。	○	ご希望に応じて、24時間、対応する事も可能。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事を念頭においている。グループ全体で身体拘束廃止委員会を定期的開催し、委員が情報伝達に努めている。	○	事業所全体での身体拘束をしない介護の実践。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしの大切さと安全確保について、全体会などで話している。利用者様の状況や出て行く気配に配慮しながら、日中は鍵をかけない生活をしている。	○	日中は鍵をかけないケアの実践の徹底。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的な巡視を行っている。また、その日によって精神状態が違ったりもするので、発言や行動を注意して観察するように努めている。	○	定期的な巡視。(居場所確認)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・包丁などの管理について、ホーム内で保管場所や方法を決めている。利用者様の居室については、利用者様の状態を踏まえ、ご家族様と話し合った上で、環境整備を行っている。	○	定期的な環境整備を行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	グループにて安全対策委員会を立ち上げている。また、他職員にも安全対策の研修を定期的開催しており、意識向上に努め、事故予防に取り組んでいる。事故が起こった場合は報告書や分析表を作成し、再発防止を検討している。	○	利用者様ごとの危険アセスメントの作成。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に人工心肺蘇生法などの講習を受けたり、アリエ内に設置してある緊急対応のマニュアルをいつでも使用できるようにしている。	○	緊急対応マニュアルの熟知。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施し、地域の方にもご参加頂けるようにしている。	○	地域の方々にご協力頂ける体制づくり。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクが出てきた際は、その都度、ご家族様にご説明し、報告している。また、急な身体レベルの低下などが認められる場合にも、電話連絡などをし、ご報告している。	○	一人一人、各リスク項目について、あげていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常があると感じた場合は日勤責任者に報告し、情報共有に努め、必要に応じて、病院受診をしている。	○	休みであった職員も申し送り書や、掲示板での定時報告で情報把握している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬説明書で、利用者様の処方薬内容について理解し、医師の指示どおりに服薬を支援している。(訪問看護師とも連携)	○	症状に変化がある場合は、速やかに医師に相談する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	申し送り書等で、排便の状態について把握している。便秘傾向にある方については散歩をうながしたり、腹部マッサージの実施、食事内容の調整をおこなっている。	○	活動性向上の検討。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	気になる利用者様についてはグループの歯科衛生士に相談している。ポスターなどで利用者様とともに職員も口腔内清潔の必要性を理解し、毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。困難な方については、口腔残渣物を取り除いたり、うがいなどのお声掛けをしている。	○	義歯洗浄の声掛け・見守りをして支援を行っている。また、利用者様にも定期的に気になる事はないかお聞きしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の希望も取り入れながら、栄養バランスを考え、献立の作成に努めている。(栄養の偏りがないように心掛けている。) 利用者様の食事摂取量・水分摂取量や特性の把握ができています。	○	利用者様によって対応を工夫しながら、アプローチしていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	グループにて感染対策委員会を立ち上げている。また、他職員にも感染対策の研修を定期的で開催しており、意識向上に努め、感染予防に取り組んでいる。	○	手洗い・消毒を徹底して実施していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、夕食後には責任を持って、台所掃除を行っている。(まな板・包丁などの消毒も含める)冷蔵庫掃除も定期的実施。	○	掃除の徹底。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの名前を見やすく表示し、植木やプランターを置いて、家庭的になるよう努めている。掃除も定期的に行っている。	○	植木やプランターの手入れを利用者様と定期的に行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、自然な光を感じて頂けるような作りにしている。天窓の日射はカーテンで調節している。テレビはご利用者様のご希望でつけたりしているが、つけていない時はBGM程度で音楽を流すなどしている。行事の写真なども貼り、ホーム内の飾りつけも行っている。	○	季節を感じて頂ける行事を毎月計画中。また、日めくりカレンダーの確認も行っていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを違う場所にいくつか設置している。そのため、気の合ったご利用者様同士で過ごされている光景もみられている。(外にもテーブルセットを設置している)	○	レクリエーションの道具などのホールにおけるよう検討中。(自由に使って頂けるように)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の使い慣れた家具や食器などを持ち込んで頂き、環境の変化がないよう、ご相談している。	○	今後も使い慣れた食器や、以前されていた趣味の道具などをお持ち頂くよう、ご相談している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や、時間を決めて窓を開け、空気のだよみがなくよう換気を行い、冷暖房の温度調節は湿温計を見たり、利用者様のご様子を観察しながら、調節している。(庭にも湿温計を設置)	○	においが強い時のために、消臭剤購入を検討中。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は要所部分に手すりをつけ、ご利用者様が歩行されやすいようにしている。また、各部屋に洗面所も設置し、物干しも適度な 高さで安全に自立した生活が送れるよう工夫している。	○	現在、浴室を改築直後である。手すり等の取り付けができていないが、準備をすすめている段階である。(必要物品を近日中に購入予定)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・役割を持ってもらえる支援を行っている。	○	・役割を持ってもらえる支援を行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭のプランターに花を植え、水かけを日課にしている。また、草とりも気が付いたら、ご利用者様自身がされる。庭にはテーブルセットも置き、ゆっくりと過ごせる環境設定を行っている。	○	野菜の栽培も検討している。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションを大切にしています。運営推進会議の開催。確実なケアマネジメント。地域との連携。ボランティアの募集の検討。